

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人塚本学院
大阪芸術大学附属松ヶ鼻幼稚園

1－1. 教育方針

○ゆとりのある環境・ゆとりの保育

幼児のこころに育って欲しいと願っていることは、自分の力を信じて、何にでも挑戦してみようという積極性や意欲です。家庭から幼稚園という大きな集団に入り、その中で先生や友だちと一緒に力を合わせて取り組むと楽しいという充実感、頑張ってやり遂げた時の達成感を得ることが『生きる力と思いやりの心を育てる』基礎になります。

それは他者から強制されるものではなく、幼児が自らの関心や興味をもった中から培われていくものです。そのためには、豊かな環境を提供することが園の役割と考えています。豊かな環境とは、充実した設備と、情緒豊かな保育者との人的環境、学びごたえのある学習環境です。

これらを踏まえ、遊びを通して幼児期に必要な体験、とりわけ「本物に直接触れる」経験を大切にしたい教育を目指しています。

1－2. 教育目標

○「生きる力」と「思いやりの心」を育てる

- ・楽しく生活する中で、きまりの大切さに気付き、守ろうとする。
- ・人と物の関わりの中で、自らを発揮し、考えたり試したり工夫したりする。
- ・周囲のさまざまな環境に好奇心や探求心を持って関わり、意欲的に活動する。
- ・協力することの大切さや、他者の心情を感じ取ったり、お互いの心情をぶつけ合ったりすることで得られる共感性を育む。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した 学校評価の具体的な目標や計画

- 1 教員一人一人が自分自身を見つめ直し、学ぶことによって資質の向上や指導スキルを高めていく。
 - ①定期的な学年会議、職員会議を行い職員間の交流の中で自らを振り返る機会を持つ。
 - ②研修や自己評価による、教員の資質向上に努める。
 - ③特色ある教育活動の展開、専門の教員による学び。
- 2 安全管理における環境や、健康管理の対策への取り組み
 - ①園児の健康観察及び予防に努める
 - ②園全体における感染症対策の徹底
 - ③安全対策
- 3 地域の子育て支援拠点の充実
 - ・おやこ教室のPRに努め、開催日程や内容を地域に発信する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
1 ①定期的な会議	A	一日の保育内容や園児、保護者対応などを毎日話し合い、職員間の連携を深め、次の保育に繋がるよう共通理解に努めた。
②研修や自己評価による 教員の資質向上 教育活動	A	外部研修での学びを発表し、学び合うことで日々の保育にいかせた。 附属 4 園の職員が集まる学びの場を毎年設けている。 保育計画を見直し、職員間で話し合う機会を持った。 さらに話し合う場を増やし、充実した保育が出来るよう努める。
③特色ある教育活動の展開 専門の教員による学び	A	音楽指導・柔道・お茶・英語活動は各専門の先生の指導のもと、質の高い経験を積むことで、子ども達も充実した内容を楽しんでいる。 クッキングでは作る喜びや苦手な食べ物の克服にも繋がっている。
2 ①園児の健康観察	A	体調不良の子どもが出た場合、全員の体温測定や様子を見ることで、感染症が広まらないように努め、降園時、保護者に様子などを伝えた。
②感染症対策	A	うがい・手洗いの推進と、職員室・保育室などに消毒液の設置 トイレに消毒液をふくませた足ふきマットを設置 階段の手すり・扉等の随時消毒 定期的な遊具・玩具・机・いす等の消毒
③安全対策	A	毎月の避難訓練、火災・地震・防犯訓練や交通安全と不審者対応を組み入れ、年間計画を立て行った。 消防署の方による指導、訓練の実施。常駐の警備員設置。 教員は、緊急一斉メールの方法を周知。 総合遊具の業者による安全点検を年 1 回、砂場の消毒を月 2 回行う。 給食では保護者はメニューの確認と選択、誤食防止の為に担任は同じ席での食事、子どもクッキングも同様にアレルギー対策に努めた。
3 地域の子育て支援の充実	B	未入園児対象の親子教室は、0～2 歳コース（月 1 回） 2～3 歳コース（月 2～3 回）を各コース毎回 2 回にわけて開催した。 他の未入園児対象のイベントはなかなか設定に至らないのが現状。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	- 自己点検、自己評価で振り返ることにより、1 つの活動の中に色々な領域の要素が含まれていることを実感した。改めて保育の面白さを感じることが出来、様々な観点から改善に繋げたい。 - 学年別、職員全体の打ち合わせを毎日行い、共通理解やチームワークを常に大切に考えてきた。経験年数に関わらず、意見を言い合える雰囲気作りにも努めた。特に行事の前は綿密に計画を立て、各教員が役割分担を持ち、取り組めたのではないと思う。

◎「3. 4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
安全管理の意識向上	避難訓練を振り返り、安全においての共通理解を職員間でさらに深めていきたい。
教育活動	日々の保育を振り返り、反省を次に活かしていけるよう努めていきたい。 教育課程を見直し、子ども達が生き生きと楽しく過ごせるよう考えていきたい。 保護者との連携についても、職員間で話し合いを重ね工夫していきたい。
園のPR	Web サイトでの写真掲載や情報公開。天王寺区の情報博覧会で幼稚園の情報公開。 インスタグラムにより、幼稚園での保育や行事・参加できるプログラムなどを紹介し、地域の方に周知することで地域の子育て拠点として活動を広げていきたい。
教育要領	教育要領を見直す機会が少なかったので職員間で話し合い、改善していきたい。

6. 学校関係者の評価（総評）

- 先生方の常に一生懸命な姿や熱い気持ちが伝わり、協力と連携の素晴らしさに感動している。
- 「熱中症対策」では子ども達のことを第一に考えて対策を取り、安全面にもすごく気をつけてくれている。
- 子ども達は学年問わず仲が良いし、先生方も全学年の子ども達に温かい雰囲気関わってくれる。
- 警備員の方も子ども達一人一人が大好きであることが伝わってくる。
- 怪我や事故を防ぐために「報告」を大切に、保育者全員で共有することで、安全面や管理面を徹底している。
- 保育参観での子ども達の姿だけでなく、そこに至るまでの過程も発信できると良いと思う。
- 日々の積み重ねを大事に考え、先生と子ども達の信頼関係の中で、いつも保育をしている。
- 例え失敗しても、他の子ども達に気付かれないようメンタル面を考慮している先生方の行動が素晴らしかった。
- ピアノを習っていないなくても、指導方法が良いお陰で、子ども達は楽しい気持ちになっている。
- 登園、降園時の道路渋滞も素早く対応し、先生方のチームワークを感じた。
- 園庭が狭い環境の中で俊敏な動きで遊んでいるため、反射神経・瞬発力が身についてきていると思う。
- 実習生の丁寧な指導のお陰で、学生は幼稚園の先生という仕事への意欲とやりがいを感じている。

7. 公開保育について

実施日時	令和6年11月21日（木） 10時～12時
実施場所	大阪芸術大学附属松ヶ鼻幼稚園
保育者	あお2組 担当教諭
テーマ	みんなで考えてあそぼう
指導助言者	大阪芸術大学短期大学部 保育学科 教授
参加者	こども園園長、保育園保育士、幼稚園園長・副園長・主任・職員、育友会会長
総評	一人一人が活動に夢中になり、皆が一丸となっていました。一人一人の関わり、友達との関係も大事に考えられていました。困っている子には安心できるように声かけをし、優しさが伝わる保育でした。できない時には助けを求められる、先生と子ども達の関係が普段からできていると思いました。友達同士で話し合いながら活動を進め、年長ならではの横の繋がりのある活動になっていました。子どもが移動した際は点検をし、細かな配慮ができていました。身近なものを使い、工夫して取り組んでいました。子ども達の意見を取り入れ、もっとやってみたいという意欲に繋がる保育でした。